第５学年　国語科学習指導案

１　単元名　　読書の世界を広げよう（２）

（教材名「わらぐつの中の神様」（光村図書５下・平成 20 年度版）

２　単元の目標

○　場面の情景や登場人物の心情を叙述に即して読み，物語の主題を読み取ることができる。
（読むこと）

○　同じ作者の複数の作品を読み比べることを通して，作者とはどういう人かをとらえようとする。（読むこと）

３　単元の評価規準

○　作者に興味をもち，進んで読書を楽しもうとしている。　【国語への関心・意欲・態度】

○　登場人物の会話や行動などを叙述に即して読み取ることを通して，登場人物のものの見方や作者の考えをとらえることができる。【読む能力】

○　自分が選んで読んだ杉さんの作品について，その良さや特徴をとらえて書くことができる。
【読む能力】

○　方言と共通語の特徴を知り，それぞれの使い分けと効果に気付く。
【言語に関する知識・理解・技能】

４　単元と児童

⑴ 単元について

本教材は，現在－過去－現在という形で場面が転換しており，小学生のマサエが，おばあちゃんであるおみつさんの昔語りを聞く形で物語が語られている。指導書等，一般的には，昔語りの主人公であるおみつさんと若い大工さんの比較，おみつさんとマサエとの比較，昔語りを聞く前後のマサエの変容等，人物の心情の読み取りを通して，人柄や考え方，生き方を考えるという目標で学習単元を構成することが多い。

当学級では，１学期の「千年の釘にいどむ」という教材で人物の人柄や考え方，生き方を読み取る学習を行っている。そこでは「千年の釘にいどむ」で学習したドキュメンタリーの読み取り方を生かし，伝記から他の人物の生き方や考え方を読み取る発展学習も行っている。

そこで，本単元では，作品に詳しく描かれている人物の心情を読み取りながら，人柄や生き方ではなく，ものの見方や考え方という方向で学習を展開したい。また，５年生の２学期ということもあり，作品の主人公の心情を共感的に読み味わうだけでなく，作者の意図や表現という作者の視点にも気付かせたい。そうすることで，作者に興味をもち，杉さんの他の作品も読んでみたいという意欲につなげたい。

また，指導書では，「わらぐつの中の神様」の後に掲載されている「方言と共通語」を併せて指導するよう計画されている。しかし，この単元の時数が少ないことと次の「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」の学習でも教材として取り扱うことが可能であることから，次の単元の教材とする。

⑵　児童の実態

年度当初は慎重で大人しい様子の児童が多く，あまり進んで考えを話したがらなかった。しかし，学級の人間関係ができてくるにつれ，のびのびと自分の考えを話したり友達の考えから学んだりできるようになってきた。

１学期に行った昨年度の内容の学力テストからは，書かれている事柄の内容を正しく理解する力，自分の考えを的確に説明する力，書かれている文章から心情を想像する力が弱いことが分かる。また，普段の授業でも，自分の考えを進んで話せるようになってはきたが，言葉足らずで意味がうまく伝わらなかったり，根拠のない勝手な思いこみをしてしまったり，文章の内容を読み違えていたりすることは多い。そこで，本単元では，物語に描かれていることを豊かに想像しながらも，文章から的確に読み取ることを大切にする。また，発言の際には，適宜，教師が足りない部分を尋ねるなどして，児童が自分の考えを分かりやすく話せるようにしていく。

５　指導の構想

物語「わらぐつの中の神様」の内容の読み取りを通して，物語の読み取り方を学ばせ，物語を読み深める楽しさを味わわせる。その後，同じ作者の他の作品を「わらぐつの中の神様」と比較する活動を通して，作者について考える目をもたせ，読書を広げる楽しさを味わわせる。

高学年では，児童の主体的な学習を促すために，学習課題を児童に作らせ，読み取りを児童それぞれが行っていくというプランを時々見かける。しかし，教材に対し妥当で適切な学習課題を設定することは非常に難しい。私自身，国語教師でありながらいつも非常に苦労している部分である。よい課題を設定するためには，教材を確かに読み取り児童につけたい力を明確にしなくてはならないからである。そこで，学級の児童の実態から考え，教材を読み取る活動では，教師が適切に導いていく。より深く考える楽しさ，読み取って気付くよさを味わわせながら，物語の読み取り方，読み深め方を学ばせる。

その上で，同じ作者の他の作品に読書を広げる。ここでは，教材の読み取りとは反対に児童の主体性を生かす学習とする。自分が選んだ作品を自分で読み取るようにさせるが，主教材である「わらぐつの中の神様」との比較をさせれることで，作者に目を向けさせ，作者が作品を通して伝えたいこと，作品の主題に迫れるようにしていく。他の作品を読む活動は時数外の朝読書や家庭での読書もあてていき，「わらぐつの中の神様」との比較のみを本単元の中で行う。

高学年の国語の時数はかなり限られている中で，読書量を確保し，将来にわたって読書を楽しめる子どもを育てるには，国語の学習で読み取り方を学ぶこととそれを自分自身が主体的に行う読書につなげていくことが大切であると考える。そこで，１学期の「千年の釘にいどむ」と同じく「読書の世界を広げよう」という単元名とし，最終的に学習した読み取り方が個々の読書生活に生きるようにしたい。

本単元で学ばせたい読み取り方は，本時（第５時）で提示する「視点」を意識させることである。文章を読み取る際には，行動や会話，情景が「だれの視点」から書かれているものかを整理して考えることができると，読み取りやすくなり内容の理解が深まる。第５時で文章から読み取った考えを「だれの視点から見たものか」という観点で整理することで，「視点」意識して読み取るという読み取り方を学ばせたい。さらに，その視点というものの見方から，作者の視点というものがあることにつなげ，第７時の作品の主題を考える活動や第８時の作者について考える活動につなげていく。

作品世界当時の雪国の生活や，服装や道具について，実物や方言について馴染みがもてる工夫をする。また，作者の他の作品も単元導入前から，教室に展示しておく。

作者杉みき子さんは上越市の出身であり，教材文には上越市の方言や上越市独特のもの（がんぎや雪げた）が出てくる。それらは，新潟市にくらす児童にはなじみがなく，想像しにくい。そこで，教材文の最初の音読は教師が行い，言葉とその意味をとらえやすくする。また，冬の上越市の写真やわらぐつ，雪げたを展示し，児童が物語りの情景を想像しやすくする。

作者や他の作品に対する興味を喚起するため，単元の導入前から作者の写真や他の作品も展示しておく。

６　指導と評価の計画（全８時間　本時第５時）

時	主な学習活動	評価規準（B）の状況 【評価方法】	評価観点					十分満足できる（A）状況	努力を要する（C）状況への手だて
			関	読	書	話	言		
1	教師の音読を聞き，「わらぐつの中の神様」の感想を書く。	「わらぐつの中の神様」について，自分の感想をノートに１ページ程度書いている。【ノート】	○	○				物語の内容の何からどう思ったかを読み手に分かりやすく書いている。	思ったことをなかなか文章にできない児童に声をかけ，対話することで感想を引き出す。
2	「わらぐつの中の神様」を全文音読し，分からない言葉の意味を調べる。	自分から進んで分からない言葉を見つけ，意味調べをしている。 【授業中の様子・ノート】	○	○			◎	たくさんの言葉の意味に興味をもち，調べている。	調べた結果の発表時間を設け，調べきれない児童もノートに記録できるようにする。
3	「わらぐつの中の神様」の場面分けを考え，過去（１場面）－現在（２場面）－過去（３場面）という場面構成を理解し，あらすじをつかむ。	過去－現在－過去という場面が分かり，あらすじをノートにまとめている。【ノート】	○	◎	○	○		登場人物や出来事を時間的順序に沿って分かりやすくあらすじにまとめることができる。	登場人物と主な出来事をクラスで話し合い，板書し，理解に時間のかかる児童も書けるようにする。
4	１場面を読み，「わらぐつの中の神様」の場面の情景を読み取る。	書かれている文章から場面の様子を的確に想像している。【絵・発言】	○	◎		○		細かい表現にも気をつけ，登場人物の位置などに気付き，発言できる。	場面の様子を表す言葉や登場人物の位置などを板書し，全員が理解できるようにする。
5	**２場面を読み，「わらぐつ」に対するおみつさんと大工さんの考え方の違いを読み取る。 （本時）**	**おみつさんが作った「わらぐつ」に対する大工さんとおみつさんの考え方や見方をとらえてい。 【ワークシート】**	**○**	**◎**	**○**			**「わらぐつ」に対する見方の違いが視点の違いであることに気付き，作者の視点からも考えている。**	**大工さんとおみつさんの視点の違いによる描かれ方の違いを色分けし，認識しやすくする。**
6	３場面を読み，１場面との比較を通して，マサエの心情の変化を読み取る。	１場面と３場面からマサエの気持ちが読み取れる箇所を探し，変化していることを見付けている。 【教科書の書き込み，ワークシート】	○	◎	○	◎		１場面と３場面のマサエの気持ちの変化とその変化のもととなったおばあちゃんの昔話の影響に気付いている。	ワークシートを工夫し，気持ちの変化を見やすくする。
7	杉みき子さんがこの作品を通して伝えたかったことを考える。	これまでの学習と教材文を見直し，作者の視点を考えて主題についての自分の考えを書くことができる。【ノート】		◎	○	○		単なる出来事についての感想ではなく作者がこの作品で伝えたかったことを文章から読み取っている。	書く際に，「杉さんは，……」と杉さんを主語にした文型を提示し，作者の立場に立てるようにする。
8	杉みき子さんの他の作品を「わらぐつの中の神様」と比較し，	同じ作者の違う作品から，作品が違っても同じことやにてい		◎	○	○		杉さんの作品に共通することをたくさん見つけ，その	自分の力で見つけられない児童も気付くことができる

	作品が違っても同じことを見つける活動を通して，作者について考える。	ることを見付けている。 【ワークシート】						意味を考えられる。	ように，作品を読んだ児童でグループを作り話し合わせる。

7　本時の学習

(1) 本時のねらい

○　「おみつさんが作ったわらぐつは，どんなわらぐつか」が分かる部分を本文から見付け，本文の叙述に即してまとめた言葉で書き表すことができる。　（読むこと）

○　同じ「わらぐつ」でも視点によって見方が違うことに気付き，作者の視点から物語を見ることができる。　（読むこと）

(2) 本時の学習活動における具体の評価規準と十分満足できる（A）状況の判断基準

＜B の状況＞	＜A の状況＞
・わらぐつについて書いてあることをまとめた言葉でワークシートに書くことができる。	・わらぐつが変な形になってしまっていることと丈夫に作ってあることの両方に気付き，それをまとめた言葉でワークシートに記入することができる。
・友達の発言を聞き，杉さんの視点から考えてワークシートに理由を記入する。	・小グループの話し合いで，杉さんの視点に立って理由を考え，意見を言う。

(3) 本時の主張

「だれの視点からか」「この視点から考えるとどうなるか」という「視点」という読み取りの方法を学ばせることで，児童の読み（物語理解）を深め，作者の視点から物語を見るという見方をつかませる。

物語文では，登場人物の心情を場面の移り変わりごとに想像し，登場人物の心情に共感させるという学習がよく行われる。そのような学習では，物語の出来事を追体験させながら児童の豊かな情操をはぐくむことができるし，友達との考えの交流で様々な見方や考え方があることに気付かせたりより深く考えたりさせることもできる。私自身そのような授業を数多く行ってきているし，国語の学習において非常に大切なことの一つであると考える。しかし，一方で読解力の低下が叫ばれ，国語の授業において確かな読み取りの力をつけることが求められている。

そこで，この授業では，心情を共感的に理解させながら，確かな読み取りの力をつけさせることを目指したい。つまり，「おみつさんが作ったわらぐつはどんなわらぐつか」と問うことで，おみつさんの立場から考えたり大工さんの立場から考えたりさせ，登場人物の心情に気付かせながら，同じ物でも違う視点から見ると見方が違うということ，「視点」という読み取りの方法を学ばせ，読み取りの力をつけたいと考えるのである。

学習者は５年生であり，作者や筆者の意図，表現の効果というところまで考えることが求められる。作者や筆者の意図，表現の効果を考えるためには，作者や筆者の視点から見るという見方が必要である。しかし，物語文で，登場人物の立場から作品を読むことと作者の立場から読むこととの間には大きなギャップがあり，低学年から繰り返し登場人物の立場で物語を読んできた児童にとって，作者の立場で考えることは非常に難しい。そこで，本時で学ぶ「視点」という読み取り方を生かして，作者の立場に立って考える経験をさせたい。しかし，先に述べたように作者

の立場から作品を学習した経験のない児童にとって，作者の立場に立って考えることは大きなものの見方の転換である。そこで，本時では，作者の立場から考える経験をさせるにとどめ，第７時で，作品の主題を考える際に，再度作者の立場からじっくり作品の意図や表現の仕方について考えるよう計画した。

(4) 展開

学習内容・活動	教師の働き掛けと子どもの反応	指導上の留意点と評価
本時の学習場面を知る。	○　２場面のおみつさんがわらぐつを作った部分「おみつさんのお父さんは……」から２場面最後までを音読させる。 ○　登場人物を確認する。	・本時の学習場面を児童がつかめるよう，全員が自分で音読するようにさせる。範囲が長いため特に読みの視点は指示せず，速読で話の大体をつかませる。 ・この後，だれの視点かということを考える活動につなげるため，登場人物を確認しておく。
おみつさんが作った「わらぐつ」関する叙述からおみつさんと大工さんのわらぐつに対する見方の違いに気付く。	おみつさんが作った「わらぐつ」は，どんな「わらぐつ」ですか。 ①形が変。 ②じょうぶ。 ○　それは，どこから分かりましたか。 ①の根拠となる部分 ・いかにも変な格好です。 ・右と左で大きさが違う。 ・足首の上のところが曲がっている。 ・底もでこぼこしていて，ちゃんと置いてもふらふらする。 ・そんなおかしなわらぐつ。 ・「わらまんじゅう」と言われた。 ・不細工。 ・おみつさんが，「うまくできねかった」と言ってるから。 ②の根拠となる部分 ・すき間なく編んであってじょうぶ。 ・大工さんが「じょうぶでいいわらぐつ」と言っているから。 ・大工さんが何度も買いに行ったから。 ○　「うまくできねかった」のに，「もらっとこう」となるのは，どうしてですか。 ・大工さんは，じょうぶなのがほしかった	・どんなわらぐつなのか，大きく全体をとらえることができるようにするために，なるべくまとめた言葉で書くようなワークシートを用意する。 ・２の場面にはまだ出てこない「神様がいる」と答える児童がいる場合は，根拠となる文章を尋ね，本時は２の場面から考えてみることを伝え，「神様がいる」以外の言い方を考えさせる。神様ということについては，第７時に取り扱う。 ・叙述に即して読み取ることができるようにするために，根拠となる文章に傍線を引かせる。 **◆評価** **A：わらぐつが，変な形になってしまっていることと丈夫に作ってあることの両方に気付き，それをまとめた言葉でワークシートに記入することができる。** **B：わらぐつについて書いてあることをまとめた言葉でワークシートに書くことができる。** **【ワークシート】** **Cへの支援：わらぐつのことが書いてある部分に線だけでも引くよう声をかける。** ・大工さんとおみつさんのわらぐつに対する見方・考え方の違いに気付かせるために，児童に言葉で説明させる。

	から。 ・おみつさんは，形が悪いと思っているけど，大工さんはじょうぶで長持ちするのがいいと思っているから ・おみつさんは，形が悪いのを気にしているけど，大工さんは，心を込めて使う人に身になって作ったのが分かったから。	・「～からみて」という概念を「視点」と言うことを教える。その上で，物語には登場人物だけでなく書いている作者の視点もあることに気付かせていく。
作者の視点から作品の描かれ方を考えてみる。	○　「おみつさん」と「若い大工さん」の他に，この場面で考えなければならない大事な視点は誰でしょう。 ・杉さん ・作者 作者の杉さんは，なぜ，このように書いたのだと思いますか。 ・おみつさんと大工さんが出会ったわけを書きたかった。 ・おみつさんと大工さんの話をおもしろくしたかった。 ・形が悪くても，丈夫なのがいいことを言いたかったから。 ・大事なのは，何かということを言いたかった。 ・格好じゃなくて中味が大事だと伝えたかった。	・これまで学習していない新しい見方であるため，児童が気付かないことも考えられる。そこで，児童が気付かない場合は，ヒントを出す。それでも気付かない場合は，教える。 ・これまで作者の視点から作品の描かれ方を考えるということは，経験がない。非常に難しい作品の見方なので，小グループで相談させてから，考えを書かせるようにする。 **◆評価** **A：小グループの話し合いで，杉さんの視点に立って理由を考え，意見を言う。** **B：友達の発言を聞き，杉さんの視点から考えてワークシートに理由を記入する。** **【話し合いの様子・ワークシート】** **Cへの支援：友達の意見の中でいいと思った考えを友達から教えもらい書くよう声をかける。**
本時の学習をまとめる。	○　何人かに発表させる。	・作者という視点から見るという見方があることを確認し，「３場面を考えたあともう一度作者の視点から考えてみよう」とまとめる。